

調査レポート

グラフで見る東海経済 (2014年7月)

【今月の景気判断】

東海経済は持ち直しが続いており、駆け込み需要の反動減からの回復がみられる。自動車生産は減少したが、輸送機械全体では増加に転じ、増税後の反動による影響は薄れつつある。雇用は底堅く推移し、春闘の賃上げ率の高まりにより所得面からの下支え効果も期待でき、個人消費や住宅投資の落ち込みに歯止めがかかっている。公共投資と設備投資も増加基調で、景気は駆け込み需要の反動減から脱しつつある。

今後は、物価上昇による実質所得の下押しが懸念されるが、賃金や夏季賞与の増加など名目所得の改善により、消費が底堅く推移すると予想される。輸出は新興国向けを中心に弱含む可能性もあるが、設備投資は製造業を中心に増加が続き、電力を除く非製造業や中小企業への波及も期待される。公共投資も消費増税に伴う対策による増加が続き、駆け込み需要の反動が一巡するにつれて景気は持ち直しの動きを強めるだろう。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	↘		↘
個人消費	↘		→	輸入	→		→
住宅投資	→		→	生産	→		↘
設備投資	↗		↗	雇用	→		→
公共投資	↗		↗	賃金	→		→

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
2. シェッド部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～米中および新興国の景気先行き、日米欧の金融政策、国際情勢に伴う原油・為替への影響
- ・企業活動～消費増税後の生産活動の動向、設備投資の企業規模や業種における広がり、新興国向け輸出
- ・家計～増税後の反動減からの持ち直し、食品や電気・ガス・ガソリンなどの物価上昇、賃金の持ち直し時期

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 [名古屋] シニアエコノミスト 内田俊宏

〒461-8516 名古屋市東区葵1丁目19-30

TEL: 052-307-1106

【各項目のヘッドライン】

項目	6月のコメント	7月のコメント	ページ
1. 景気全般	持ち直しが続いているが一部に駆け込み需要の反動がみられる	持ち直しが続いており、駆け込み需要の反動減からの回復がみられる	3~4
2. 生産	駆け込み需要の反動により減少している	横ばい圏で推移している	5~7
3. 雇用	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	7~8
4. 賃金	緩やかに持ち直している	横ばい圏で推移している	9
5. 個人消費	持ち直しが続いているものの、駆け込み需要の反動がみられる	持ち直しが続いており、駆け込み需要の反動減からの回復がみられる	10~11
6. 住宅投資	減少が一服している	減少が一服している	12
7. 設備投資	製造業は増加している	製造業は増加している	12~13
8. 公共投資	増加している	増加している	13
9. 輸出入	輸出は減少傾向、輸入は横ばい圏	輸出は減少傾向、輸入は横ばい圏	14~15
10. 物価	消費者物価は消費税率引き上げにより大幅に上昇	消費者物価は消費税率引き上げにより大幅に上昇	15
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	16
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに減少	16

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料:「グラフで見る景気予報」

<http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】
1. 景気全般

自動車生産は減少したが生産全体では増加し、雇用も底堅く推移している。春闘の賃上げ率の高まりにより、個人消費や住宅投資の落ち込みにも歯止めがかかっている。公共投資と設備投資も増加基調で、景気は増税前の駆け込み需要の反動減から回復しつつある。

2. 生産

東海3県の鉱工業生産指数は、4月に前月比 - 4.9%と駆け込み需要の反動が出たが、5月は同 + 3.4%と反動減から脱し、2ヶ月ぶりに増加した。増税後は均してみると横ばい圏で推移している。

4. 賃金

4月の一人当たり現金給与総額は、前年比 - 0.4%と13ヶ月ぶりに減少したが、均してみると横ばい圏で推移している。所定外給与が同 + 4.0%と11ヶ月連続で増加したが、所定内給与が同 - 0.9%と2ヶ月ぶりに減少した。

5. 個人消費

6月の名古屋市内の百貨店販売額は前年比 - 2.2%と3ヶ月連続で減少したが、落ち込み幅は急速に縮小している。5月の東海3県の新車登録台数(乗用車、含む軽)も前年比 - 0.3%と2ヶ月連続で減少したものの、ほぼ前年並みまで回復している。

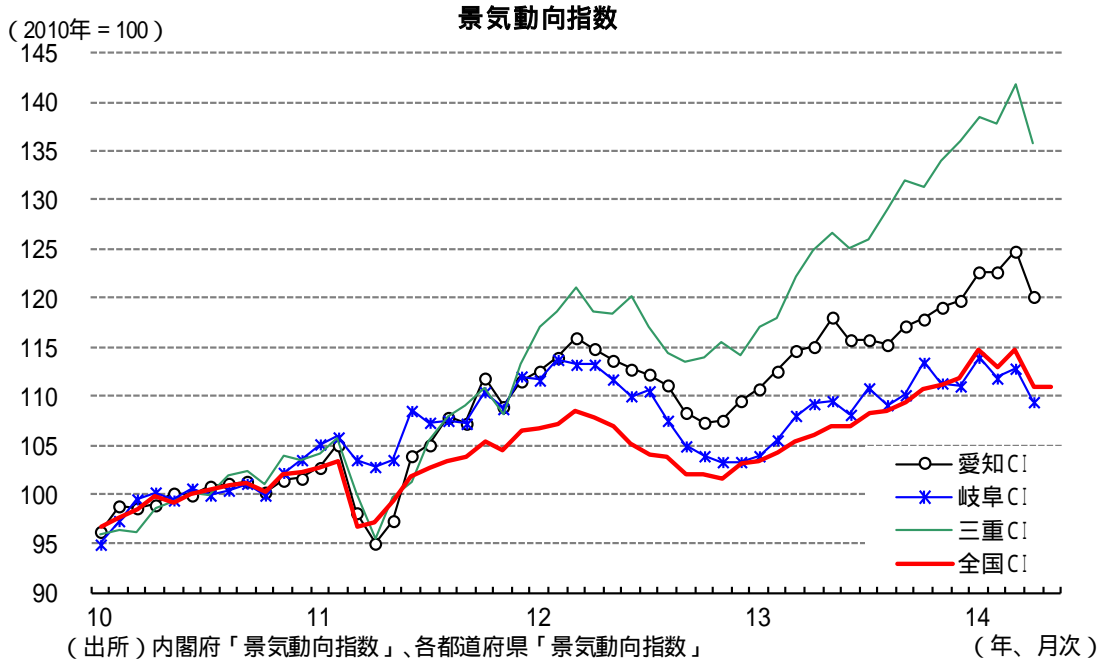
【主要経済指標の推移】

経済指標		13 4-6	13 7-9	13 10-12	14 1-3	14 4-6	14 1	14 2	14 3	14 4	14 5	14 6
景気全般	景気動向指数 愛知(CI、一致指数)	116.3	116.1	118.9	123.4		122.7	122.7	124.8	120.2		
	岐阜(CI、一致指数)	109.0	110.1	112.0	112.9		114.0	111.9	112.9	109.5		
	三重(CI、一致指数)	125.6	129.0	133.7	139.3		138.5	137.8	141.7	135.8		
	景気ウォッチャー調査(現状判断DI)	54.5	52.3	55.7	56.1	45.3	56.6	54.6	57.0	43.2	44.9	47.9
	(先行判断DI)	55.4	53.7	54.4	40.5	51.8	46.6	40.4	34.6	47.9	53.8	53.6
	短観業況判断DI(大企業製造業)	7	17	19	28	12	12	<6月予想>				
(中小企業製造業)	-11	-3	8	13	0	-2	<6月予想>					
(非製造業)	2	9	12	17	9	8	<6月予想>					
法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	1.1	0.8	0.9	0.5								
非製造業(兆円)	0.2	0.3	0.2	0.1								
生産	鉱工業生産(季節調整済、前期比・前月比)	1.5	1.6	0.6	5.6		6.3	-2.2	0.5	-4.9	3.4	
	鉱工業出荷(季節調整済、前期比・前月比)	3.5	0.8	0.4	3.6		5.9	-3.5	1.6	-2.4	0.4	
	鉱工業在庫(季節調整済、前期比・前月比)	-1.3	-0.1	-3.8	2.7		2.5	2.8	-1.5	0.6	1.2	
	鉱工業生産 輸送機械(")	0.7	-1.1	2.0	4.1		8.9	-6.2	1.2	-3.8	3.2	
	一般機械(")	4.6	0.1	4.1	9.0		12.6	-3.2	-5.1	-2.2	6.0	
	電子部品・デバイス工業(")	7.8	4.1	-2.0	17.2		6.4	11.3	5.8	-12.3	5.8	
	プラスチック製品工業(")	0.1	0.3	3.3	6.2		7.0	-0.3	-1.4	-5.1	0.0	
	化学(")	-1.4	-2.4	0.0	-5.7		3.4	-5.4	-9.0	-7.1	2.4	
	電気機械(")	-0.8	4.0	3.6	3.6		4.2	0.6	-4.2	0.6	-2.6	
	鉄 鋼(")	3.1	-1.9	4.8	-2.1		-2.3	-3.9	1.9	-1.0	3.6	
金属工作機械受注 総受注(億円)	322.5	352.2	360.8	340.0		329.0	316.0	375.0	356.7	337.0		
国内受注(億円)	93.8	113.2	122.8	112.5		104.9	105.7	127.0	107.6	107.7		
海外受注(億円)	228.7	239.0	241.2	227.5		224.1	210.3	248.1	249.1	229.3		
大口販売電力量	-1.7	0.2	3.6	5.1		6.2	4.5	4.6	1.7	-0.3		
雇用	完全失業率(原数値、%)	3.5	3.1	3.3	2.7							
	就業者数(原数値、万人)	773	778	774	759							
	常用雇用指数 愛知	100.1	100.2	100.2	100.1		100.1	100.1	100.0	100.6		
	岐阜	99.0	98.9	98.5	97.7		97.5	98.0	97.6	98.3		
	三重	97.8	98.9	98.0	97.2		97.5	97.1	96.9	97.6		
	有効求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	1.3	1.36	1.5	1.5		1.49	1.53	1.55	1.56	1.57	
	岐阜(季節調整値、倍)	1.1	1.11	1.2	1.2		1.22	1.23	1.25	1.23	1.29	
	三重(季節調整値、倍)	1.0	1.07	1.2	1.2		1.19	1.21	1.21	1.24	1.23	
新規求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	2.0	2.09	2.3	2.3		2.21	2.41	2.38	2.28	2.34		
岐阜(季節調整値、倍)	1.7	1.66	1.7	1.9		1.88	1.81	1.88	1.76	1.86		
三重(季節調整値、倍)	1.6	1.63	1.8	1.8		1.68	1.81	1.83	1.87	1.79		
賃金	現金給与総額	1.2	0.9	2.1	0.4		0.5	0.4	0.3	-0.4		
	所定内給与	0.8	0.3	0.6	0.2		0.2	0.0	0.3	-0.9		
	所定外給与	-0.4	3.6	8.4	5.1		4.5	6.2	4.5	4.0		
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入 勤め先収入	6.6	1.8	7.0	-2.3		0.9	1.0	-8.3	-10.1	-0.6	
定期収入	-0.4	2.9	8.9	-3.0		-0.6	-0.9	-7.4	-7.8	-3.4		
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出	2.7	3.1	4.8	8.5		6.6	13.0	6.8	-5.8	-4.8	
	百貨店販売額(名古屋市内)	7.8	4.0	5.4	23.3	-6.4	7.8	11.8	37.3	-12.8	-4.8	-2.2
	百貨店+スーパー販売額(名古屋市内百貨店除く)	1.1	3.2	3.0	6.7		3.0	5.9	11.8	0.2	1.3	
	コンビニエンスストア販売額	0.3	0.3	1.4	0.1		-1.5	-0.2	1.9	-3.5	-1.1	
	新車登録台数(含む軽)	-9.0	3.5	19.8	20.3		33.8	16.8	15.0	-7.2	-0.3	
	家電販売額	2.3	-3.7	1.4	40.5		12.0	28.1	73.6	-18.9		
	消費者態度指数(一般世帯、原数値)	46.3	45.0	41.1	39.1	39.7	41.2	38.3	37.7	37.3	39.9	41.9
トヨタ国内生産台数(季節調整値、万台)	29.3	27.6	26.0	30.0	28.1	30.6	29.9	29.4	30.6	28.0	25.6	
住宅投資	新設住宅着工戸数(季節調整済年率換算、千戸)	114.5	121.4	118.9	106.4		112.9	105.6	100.6	110.0	105.7	
	(前年比、%)	18.1	19.7	11.7	-1.1		5.8	-1.4	-7.7	0.1	-4.6	
設備投資	法人企業統計設備投資(製造業)	10.1	30.3	24.8	13.0							
	(非製造業)	-7.0	-12.9	0.8	-13.0							
企業立地件数	-	-	-	-	-	17	24		19			
公共投資	公共工事請負額	6.5	26.7	5.4	-2.1	34.2	-11.2	13.6	-4.3	37.7	31.0	32.1
輸出入	実質輸出(季節調整済、07/12=100)	87.4	86.9	88.6	85.3		84.6	86.8	84.7	85.4	81.7	
	通関輸出(金額ベース、円建て)	10.9	16.6	22.0	7.3	-1.9	13.0	7.3	2.6	4.2	-5.9	-4.3
	実質輸入(季節調整済、07/12=100)	97.3	98.0	95.1	103.7		104.6	101.6	105.0	93.7	101.2	
	通関輸入(金額ベース、円建て)	6.7	11.1	22.2	20.0	5.9	25.3	12.3	22.1	1.8	3.2	13.7
物価	消費者物価指数(除く生鮮)	-0.1	0.6	1.1	1.2		1.1	1.3	1.3	3.1	3.5	
	(食料及びエネルギーを除く総合)	-0.3	0.0	0.8	0.9		0.8	1.0	0.8	2.3	2.3	
金融	国内銀行預金残高	1.6	1.9	2.6	2.4		2.9	2.6	1.7	2.1	1.7	
	国内銀行貸出残高	1.6	2.3	2.4	1.4		1.7	1.8	0.8	1.4	1.3	
倒産	倒産件数	-12.5	-13.3	13.9	-5.9	-11.3	0.0	6.1	-18.8	-1.2	-11.8	-20.7

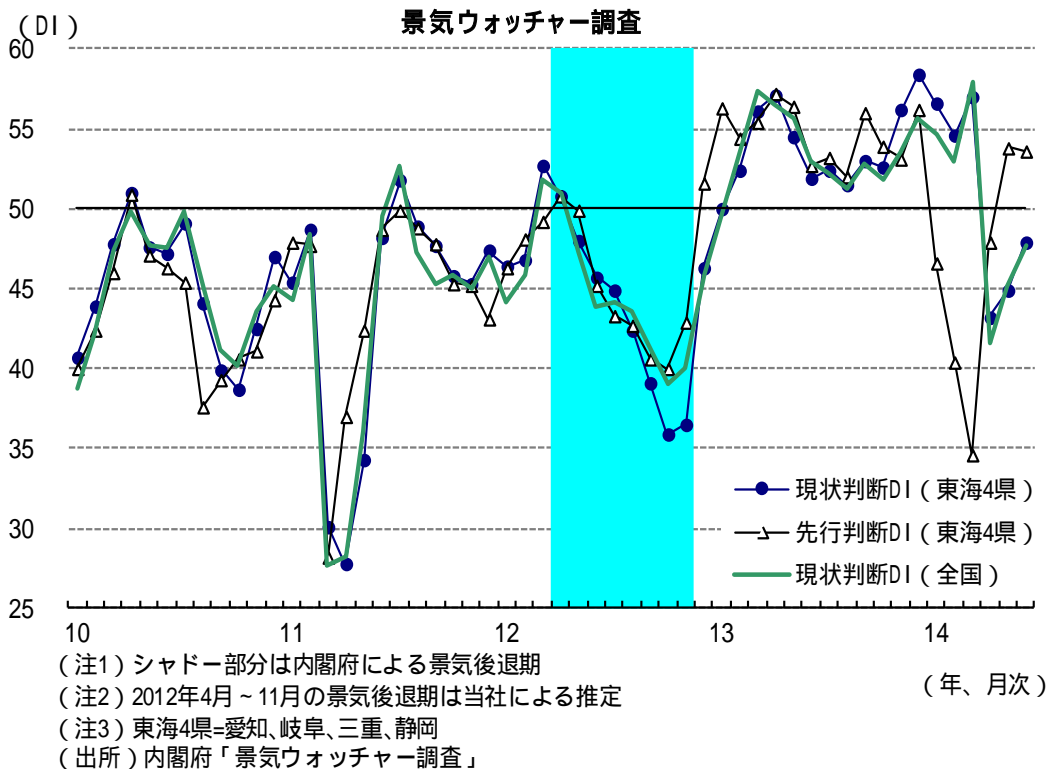
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~ 持ち直しが続いており、駆け込み需要の反動減からの回復がみられる

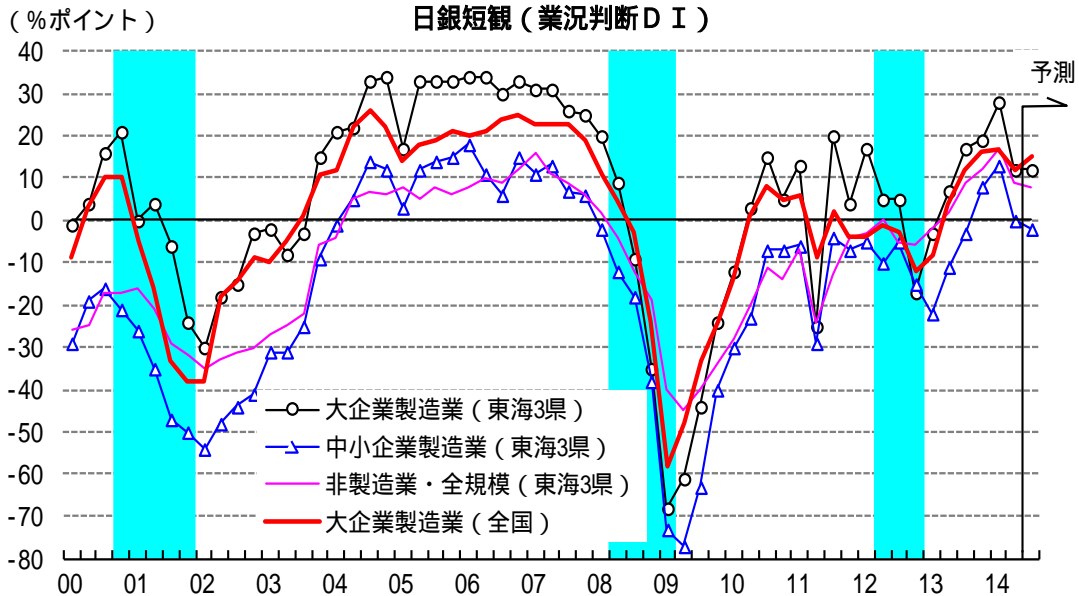
4月の東海3県の景気動向指数・C I一致指数は、愛知県が8系列のうち7系列でマイナス寄与となり、前月差 - 4.6ポイントと2ヶ月ぶりに低下した。岐阜県は同 - 3.4ポイント、三重県は同 - 5.9ポイントといずれも2ヶ月ぶりに低下した。先行指数は、愛知県は上昇したが、岐阜県と三重県は低下した。



6月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、駆け込み需要の反動も軽減し、足元の景況感を示す現状判断DIが前月差 + 3.0ポイントと2ヶ月連続で上昇した。家計動向関連の現状判断DIも同 + 3.9ポイントと2ヶ月連続で上昇した。東海4県の先行判断DIは、消費増税後に景気の先行きへの警戒感が和らいだものの、同 - 0.2ポイントと横ばい圏で推移している。

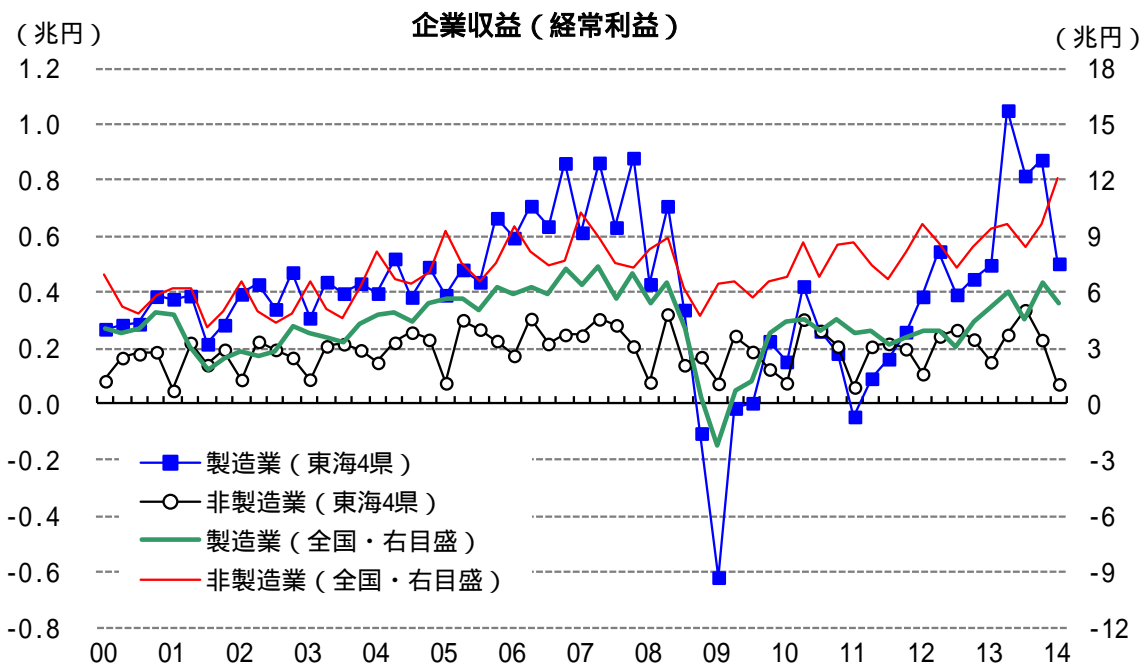


日銀短観6月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は+12と、前回調査から16ポイント悪化した。駆け込み需要の反動は全国を上回り、水準は全国を下回った。中小企業製造業は0となり前回より13ポイント悪化した。業況判断D Iの9月予測は、大企業製造業は+12、中小製造業では-2と横ばい圏での推移が見込まれている。



(注1) シャドー部分は内閣府による景気後退期
 (注2) 2012年4月～11月の景気後退期は当社(調査部)による推定
 (注3) 調査対象企業見直し時における前回調査の計数は見直し後で接続。
 (注4) 東海3県=愛知、岐阜、三重。
 (出所) 日本銀行、日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」

2014年1～3月期の東海4県の企業収益(経常利益、製造業)は前年同期比で+1.1%と小幅ながら8期連続の増益となった。輸出増が一巡したものの、消費増税前の駆け込み需要が下支え要因となった。一方、非製造業は同-52.0%と減少した。消費増税前の駆け込み需要に備えてトヨタの生産(季調済)が14年1～3月期に増加基調で推移したため、13年度中の企業収益は堅調に推移した。

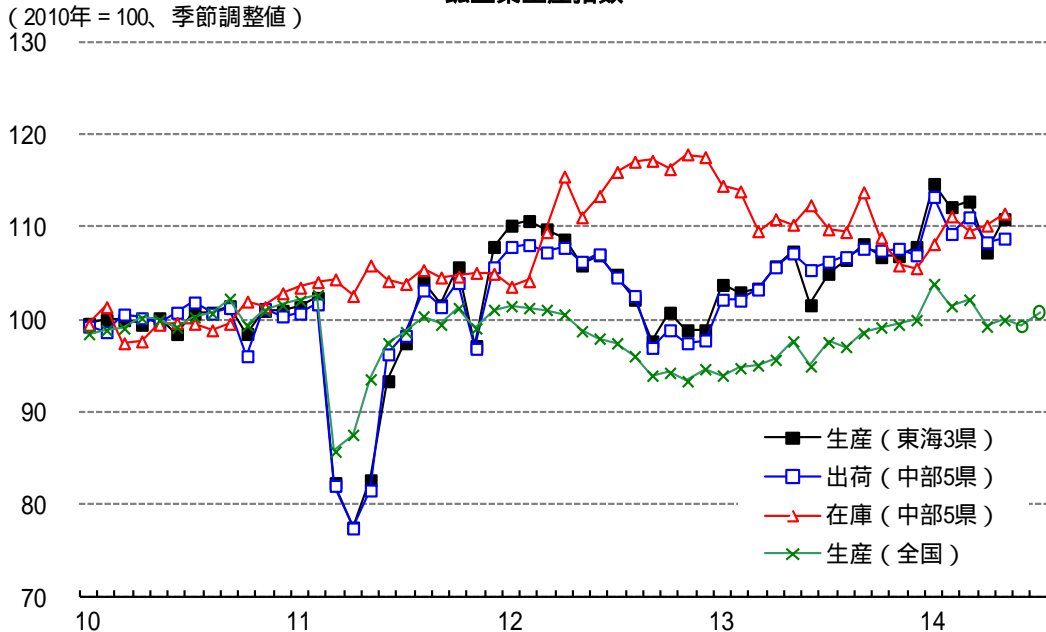


(注) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
 (出所) 財務省「法人企業統計調査」、東海財務局「四半期別法人企業統計調査」

2. 生産 ~ 横ばい圏で推移している

東海3県の鋳工業生産指数は、4月に前月比 - 4.9%と駆け込み需要の反動が出たが、5月は同 + 3.4%と反動減から脱し、2ヶ月ぶりに増加した。先行きは、輸出の伸び悩みが続くほか、駆け込み需要の反動減の影響が残るため、自動車生産計画の減少見通しに連動して、自動車を中心に鋳工業全体での生産の伸び悩みが予想される（P.11下図 トヨタ国内生産計画参照）。

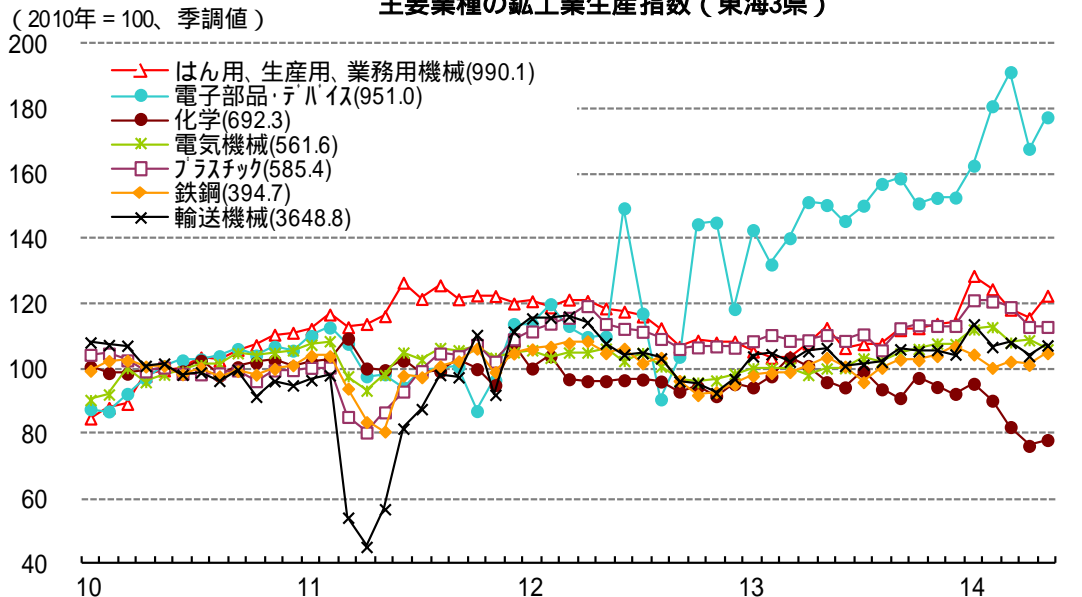
鋳工業生産指数



(注1) 東海3県 = 愛知、岐阜、三重。中部5県 = 愛知、岐阜、三重、富山、石川。
 (注2) 生産(全国)の「x」は製造工業生産予測結果から試算した予測。
 (出所) 経済産業省「鋳工業指数」、中部経済産業局「管内鋳工業指数」

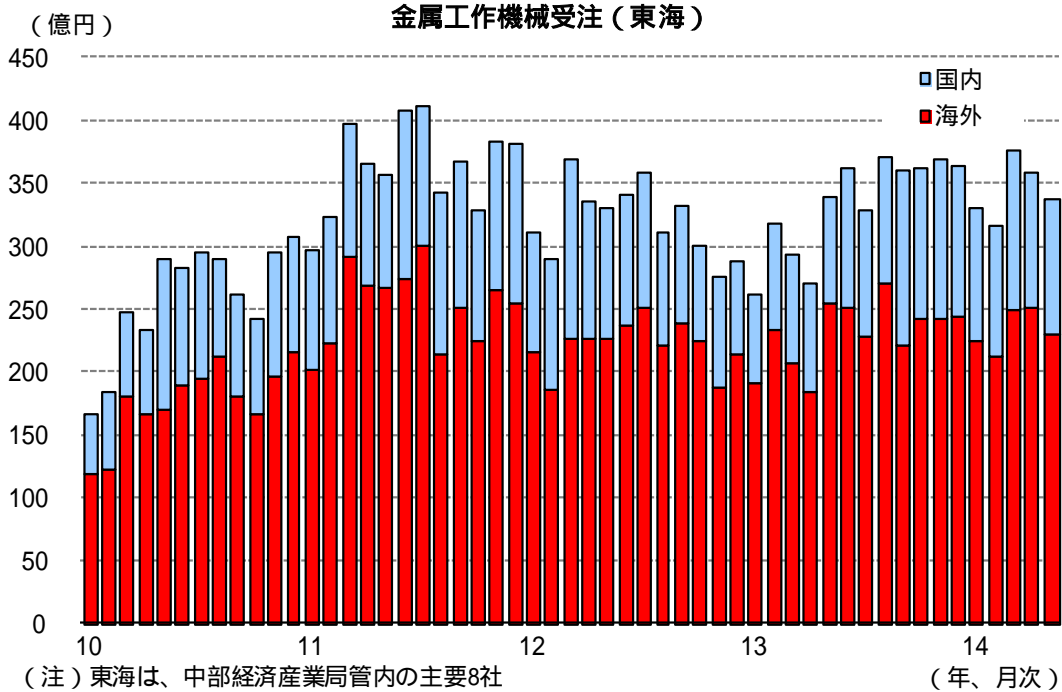
業種別では、乗用車(前月比 - 3.8%)は2ヶ月連続で低下したが、自動車部品(同 + 3.4%)が2ヶ月ぶりに上昇し、輸送用機械全体でも同 + 3.2%と2ヶ月ぶりに上昇した。自動車向けも多い鉄鋼(同 + 3.6%)も上昇したほか、電子部品・デバイス(同 + 5.8%)、はん用・生産用・業務用機械(同 + 6.0%)なども上昇した。一方、航空機部品(同 - 4.3%)は低下している。

主要業種の鋳工業生産指数(東海3県)

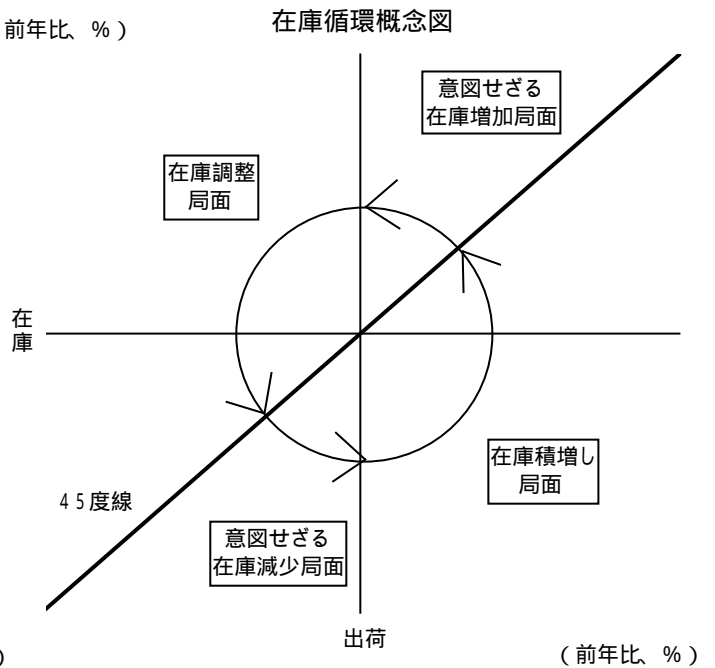
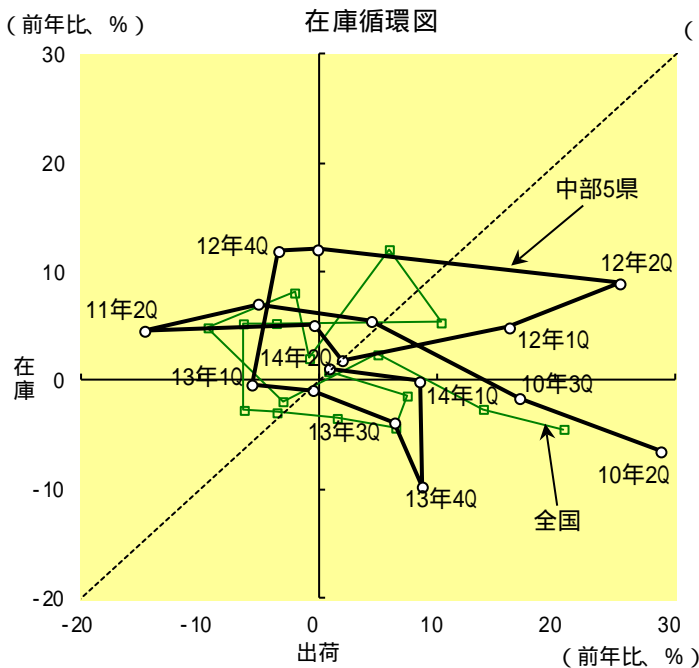


(注1) 凡例括弧内の数字は付加価値ウェイト(鋳工業 = 10000.0)
 (注2) 東海3県 = 愛知、岐阜、三重。
 (出所) 中部経済産業局「管内鋳工業指数」

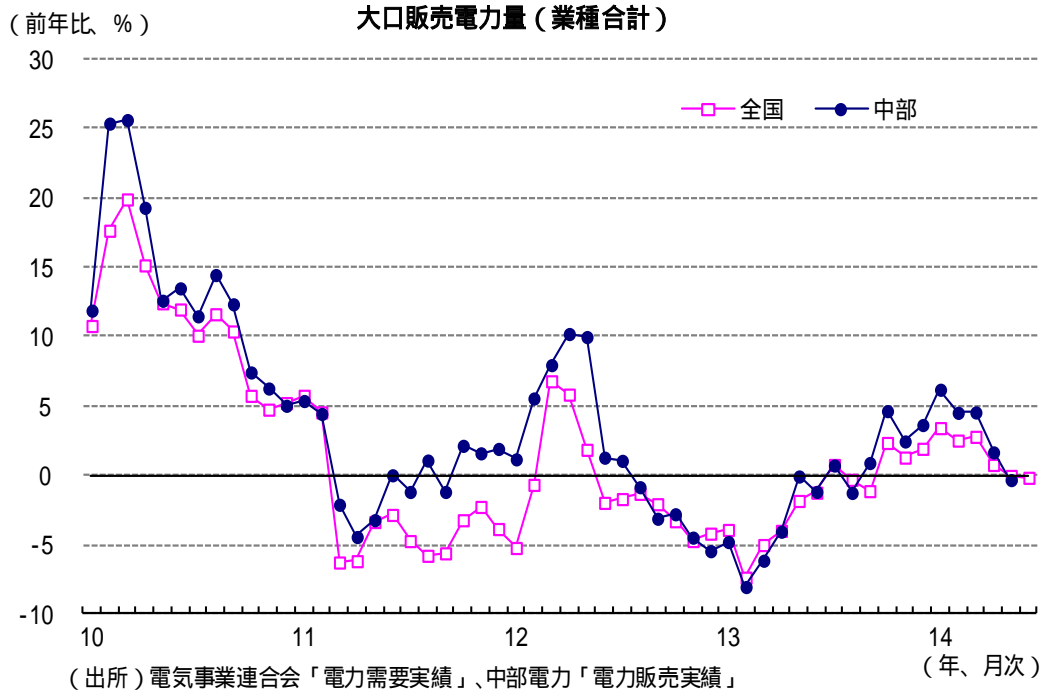
5月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比 - 0.4%と3ヶ月ぶりに減少した。国内受注は自動車向けを中心に同 + 26.7%と10ヶ月連続で増加した。海外受注は同 - 9.5%と3ヶ月ぶりに減少した。欧州向け（同 + 17.7%）の増加が続いているものの、米国向け（同 - 10.4%）や最大シェアの中国向け（同 - 21.5%）を含むアジア向け（同 - 14.5%）の減少が響いた。



5月の中部5県の出荷は、前月比 + 0.4%と2ヶ月ぶりに増加した。食料品、電子部品・デバイス、繊維などで増加した。在庫は、同 + 1.2%と2ヶ月連続で増加した。輸送機械、はん用・生産用・業務用機械などで増加した。

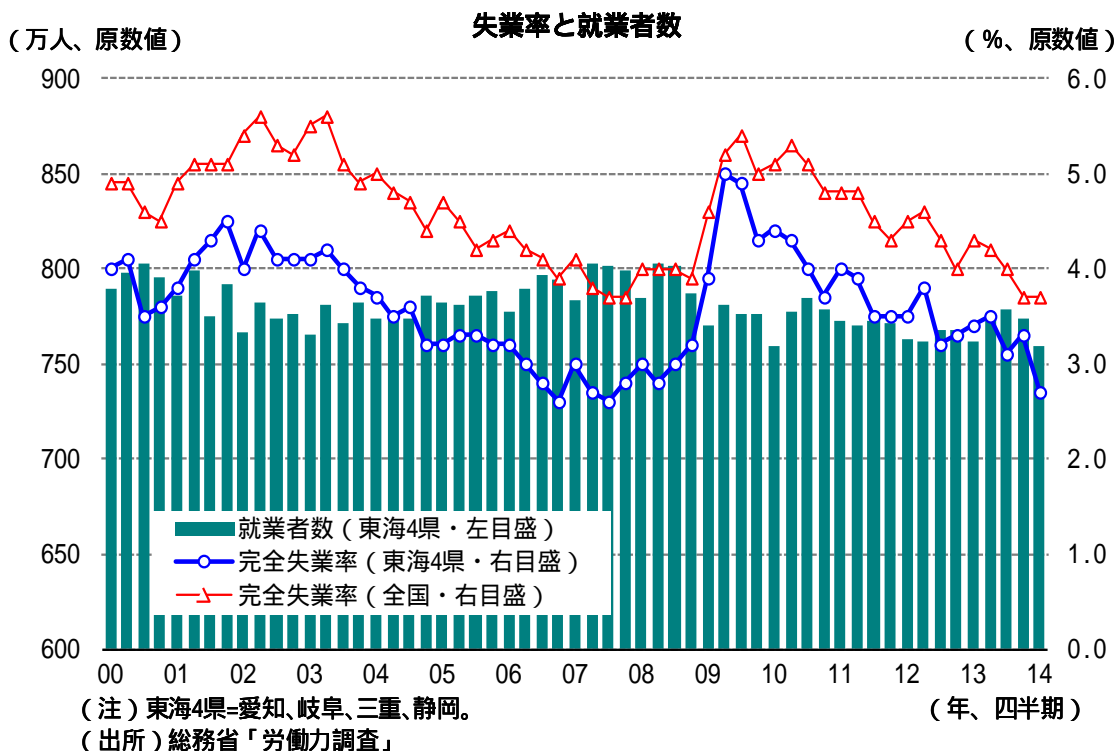


5月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は、前年比 - 0.8%と9ヶ月ぶりに減少した。自動車などの機械工業向けが同 + 1.9%と11ヶ月連続で増加したが、自動車用鋼材や建築用鋼材の生産増が続いていた鉄鋼業向けが同 - 2.0%と9ヶ月ぶりに減少した。自動車部品を含む窯業・土石向け（ - 0.4%）も減少している。

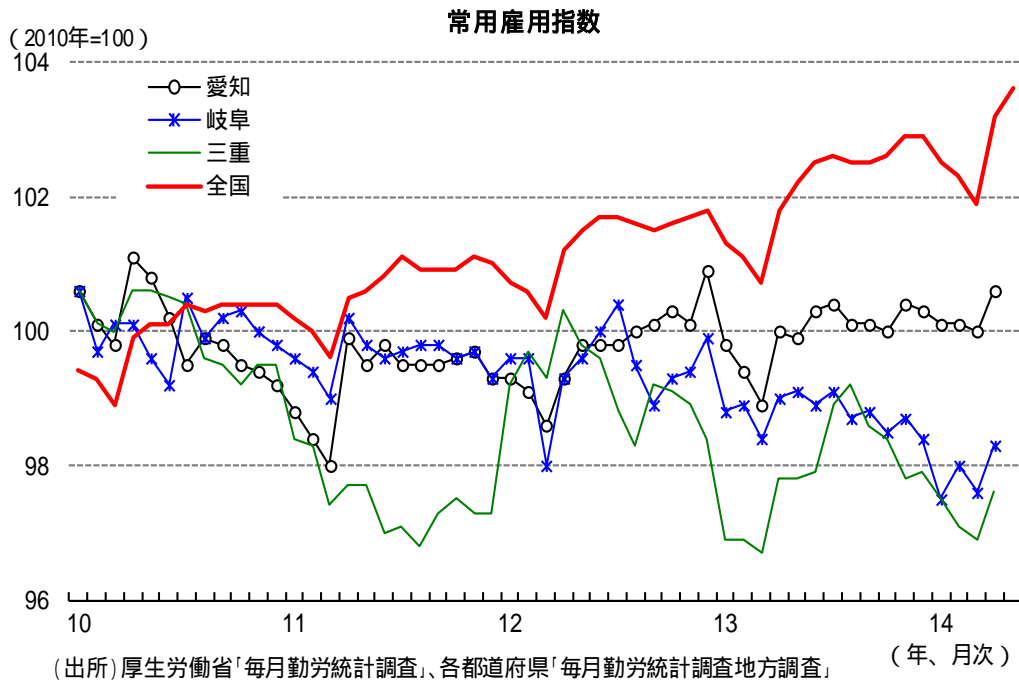


3. 雇用 ~ 横ばい圏で推移している

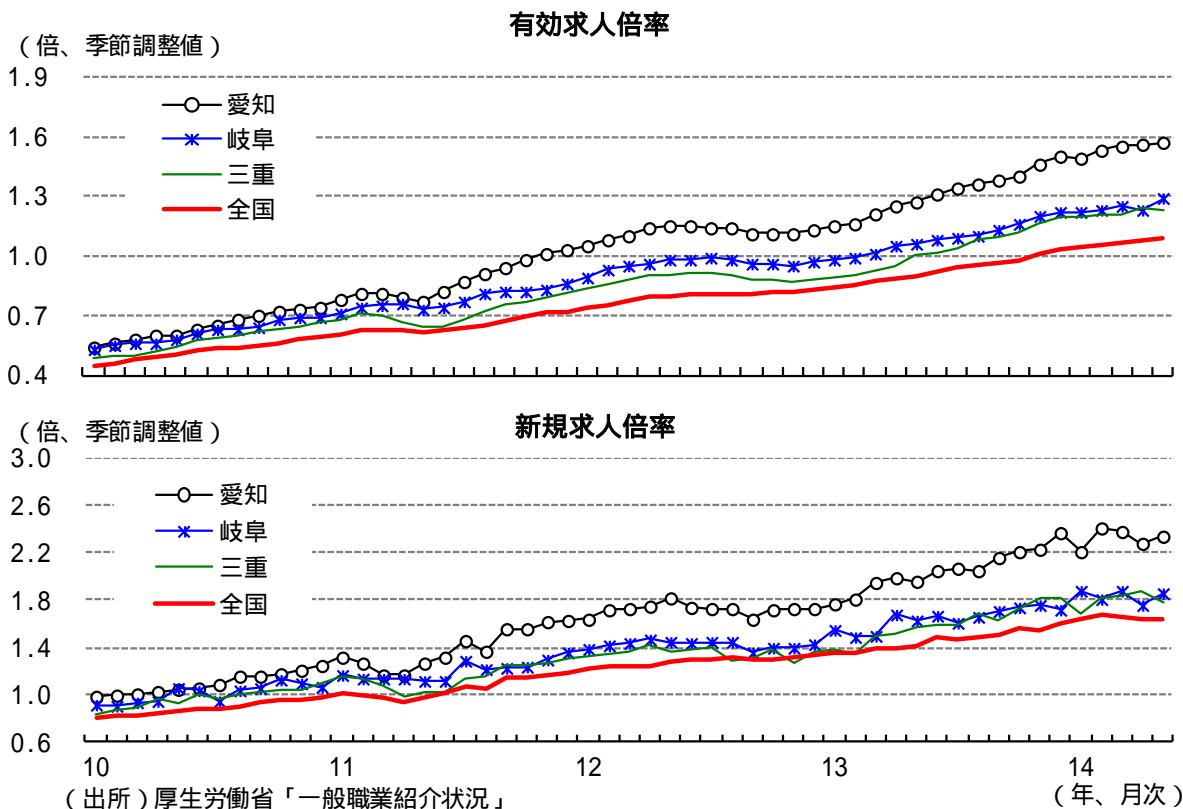
2014年1～3月期の東海4県の完全失業率は2.7%(前年差 - 0.7%ポイント)と前年比で大きく低下し、全国(3.7%)と比べても低水準となっている。一方、同時期の就業者数は前年差3万人の減少となった。東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きが続いている。愛知県の有効求人倍率は小幅ながら上昇を続けているが、新規求人倍率は3ヶ月ぶりに上昇したものの、頭打ち状態が続いている。



4月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+0.6%と4ヶ月連続で上昇した。一方、岐阜県は同-0.7%と13ヶ月連続、三重県も同-0.2%と4ヶ月ぶりに低下した。依然として、全国(同+1.4%)に比べて弱い動きが続いている。

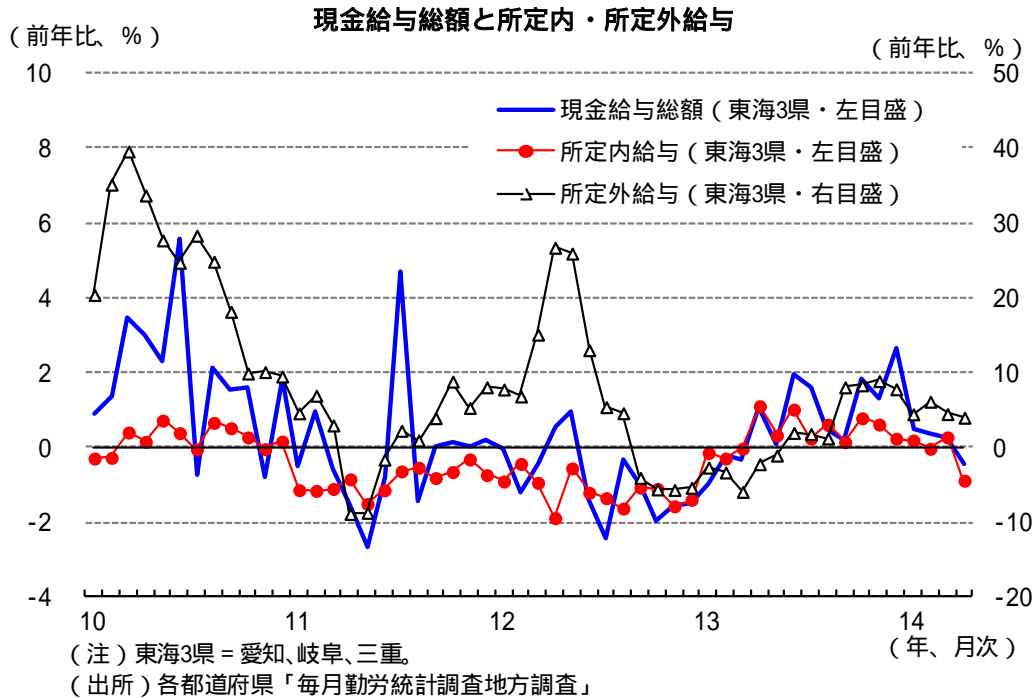


5月の東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、愛知県が1.57倍と4ヶ月連続で上昇し、7ヶ月連続で全国トップとなった。岐阜県は1.29倍と2ヶ月ぶりに上昇したが、三重県は1.23倍と2ヶ月ぶりに低下した。新規求人倍率(同)は、愛知県が2.34倍と3ヶ月ぶりに上昇し、岐阜県も1.86倍と2ヶ月ぶりに上昇した。三重県は1.79倍と4ヶ月ぶりに低下した。

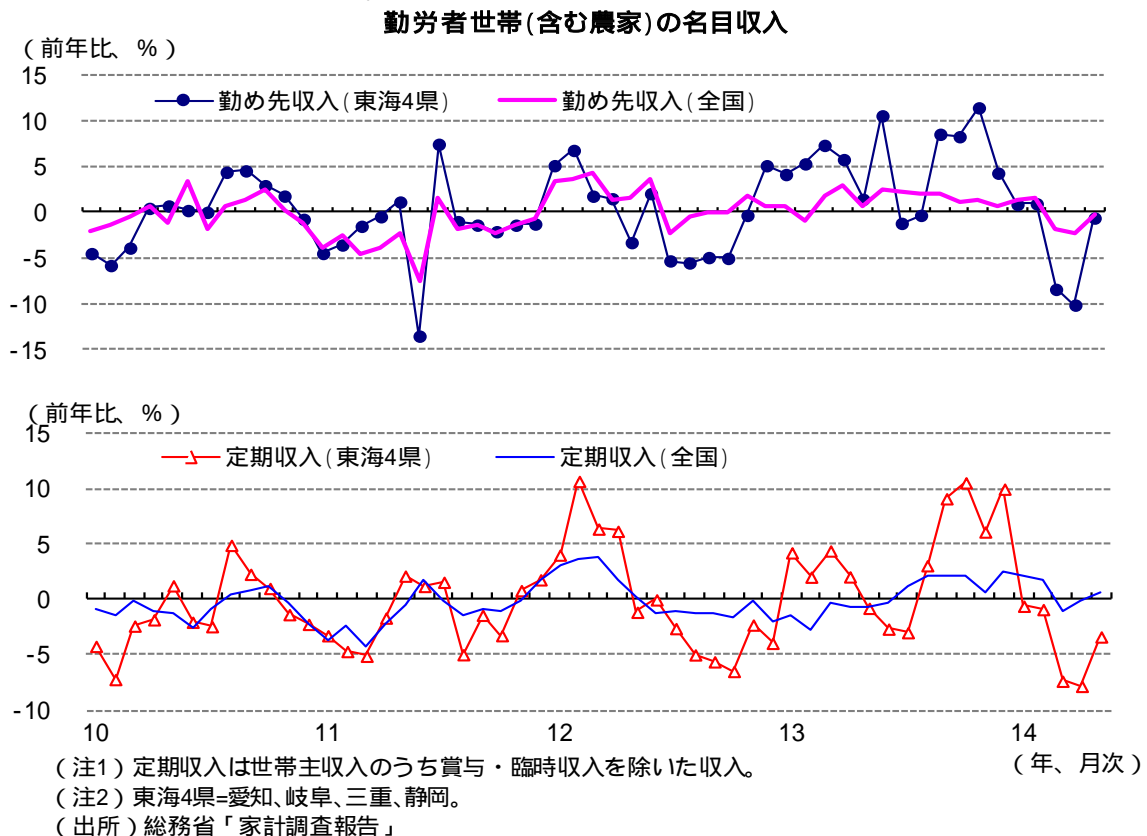


4. 賃金 ~ 横ばい圏で推移している

4月の一人当たり現金給与総額は、前年比 - 0.4%と13ヶ月ぶりに減少したが、均してみると横ばい圏で推移している。所定外給与が同 + 4.0%と11ヶ月連続で増加したが、所定内給与が同 - 0.9%と2ヶ月ぶりに減少した。春闘では定昇に加えベア実施に踏み切る企業が増えたが、企業の人件費抑制姿勢は根強い。夏のボーナスは増加するが、賃金は横ばい圏で推移すると見込まれる。

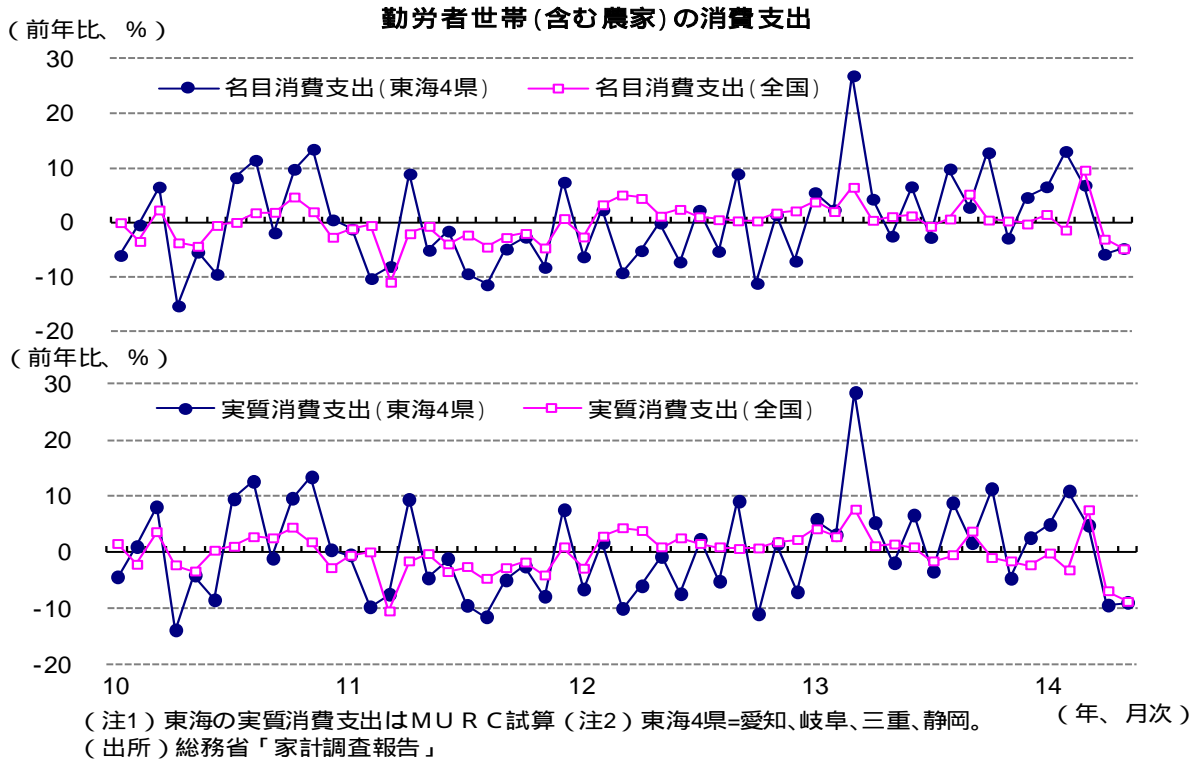


家計調査によると、5月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比 - 0.6%と3ヶ月連続で減少した。4月の定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)は前年比 - 3.4%と5ヶ月連続で減少した。

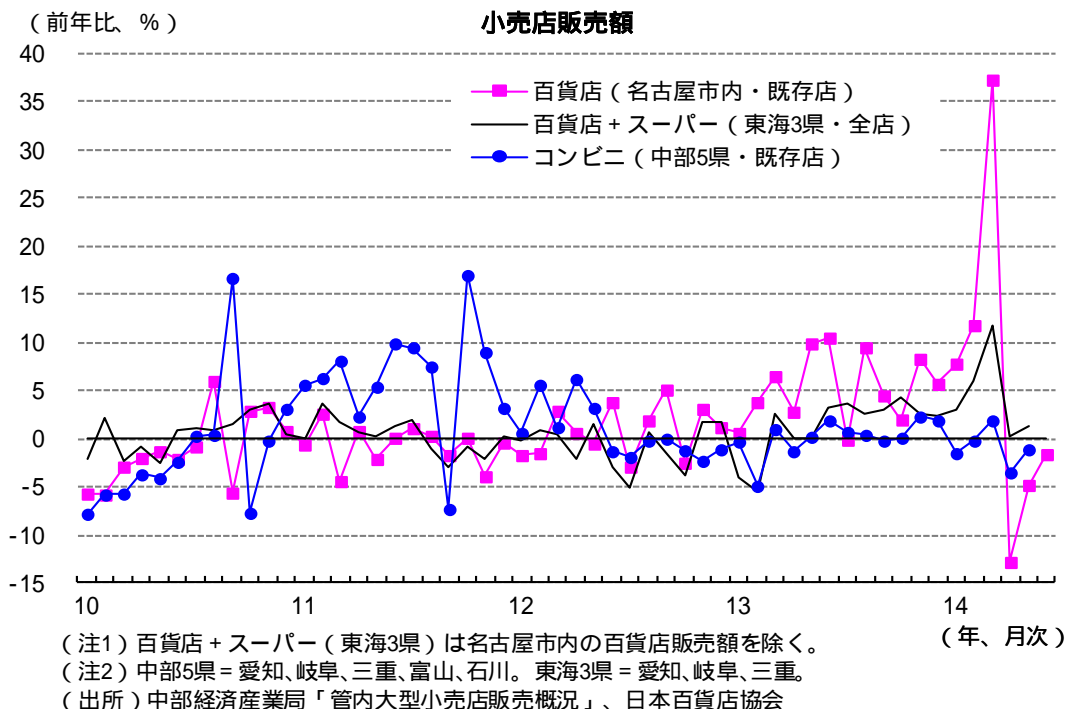


5. 個人消費 ~ 持ち直しが続いており、駆け込み需要の反動減からの回復がみられる

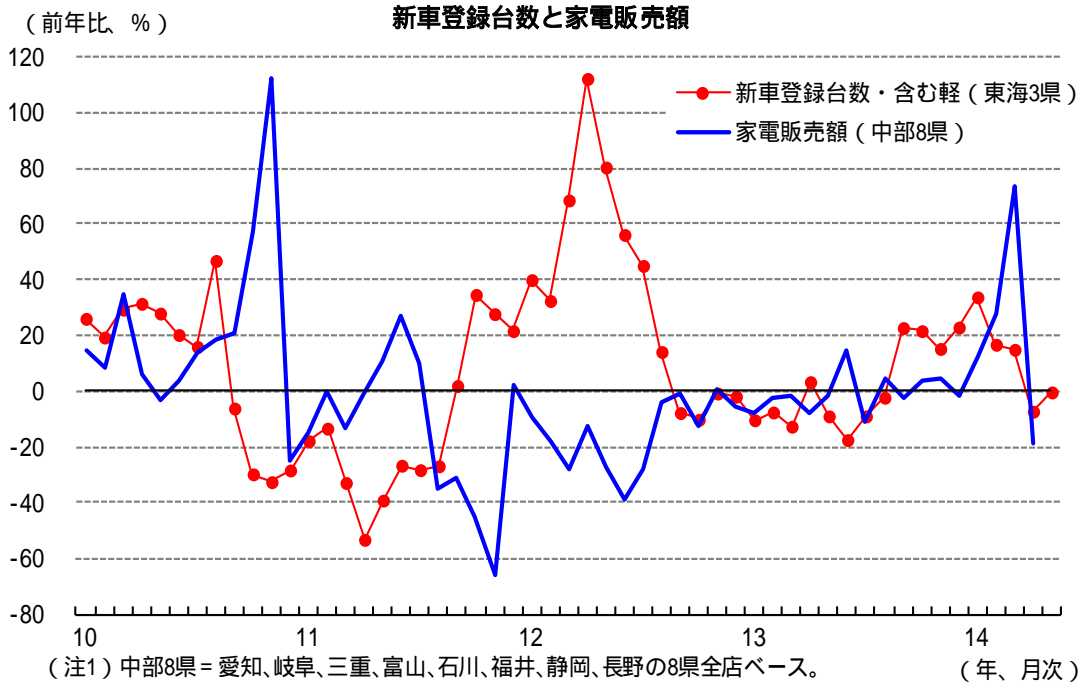
5月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は、前年比 - 4.8%と2ヶ月連続で減少した。名目・実質消費支出とも一時的に減少しているが、駆け込み需要の反動減からは持ち直してきている。春闘の妥結結果や夏のボーナス支給の増加もあり、足元で消費者マインドは改善している。物価上昇により実質所得は減少しているが、先行きは、横ばい圏で推移することが予想される。



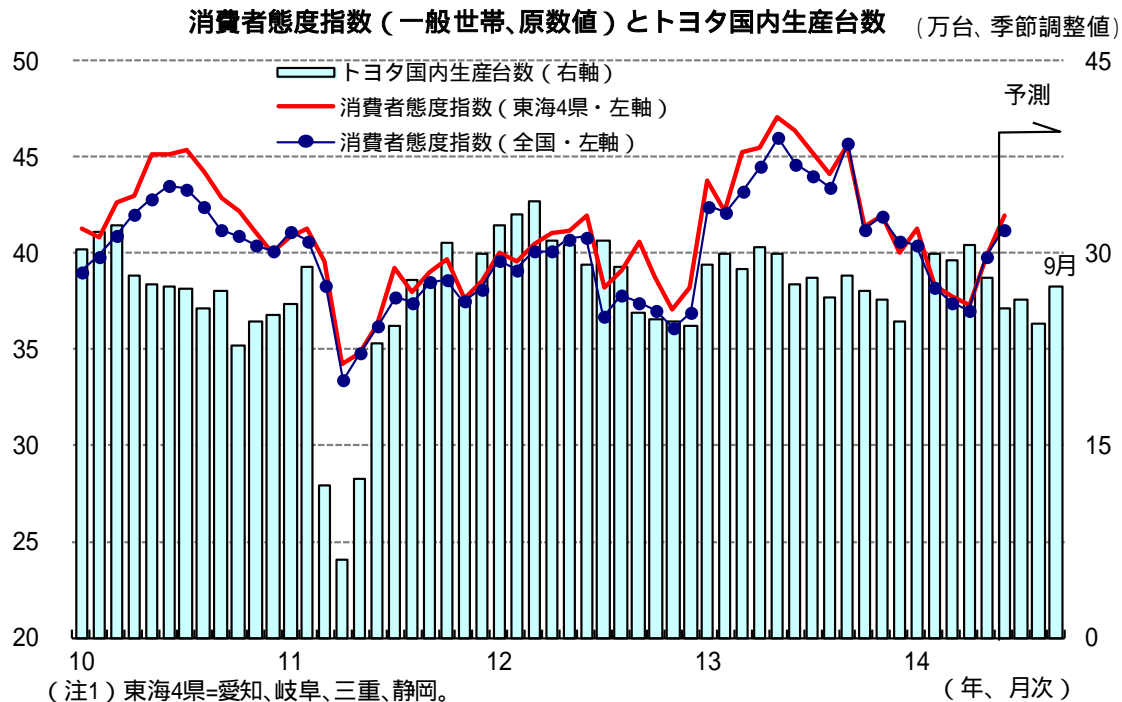
6月の名古屋市内の百貨店販売額は、増税前の駆け込み需要の反動により、前年比 - 2.2%と3ヶ月連続で減少したが、落ち込み幅は急速に縮小している。5月の東海3県の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額は駆け込み需要の反動もあったが、同+1.3%と15ヶ月連続で小幅に増加した。中部5県のコンビニ販売額は、たばこ販売の反動減などにより、同 - 1.1%と2ヶ月連続で減少した。



5月の東海3県の新車登録台数（乗用車、含む軽）は、前年比 - 0.3%と2ヶ月連続で減少した。増税前の駆け込み需要の反動がみられるが、低燃費のハイブリッド車やコンパクトカーの販売が下支えとなり、販売の落ち込みは想定内にとどまっている。4月の中部8県の家電販売額は駆け込み需要を背景に同 - 18.9%と4ヶ月ぶりに減少した。

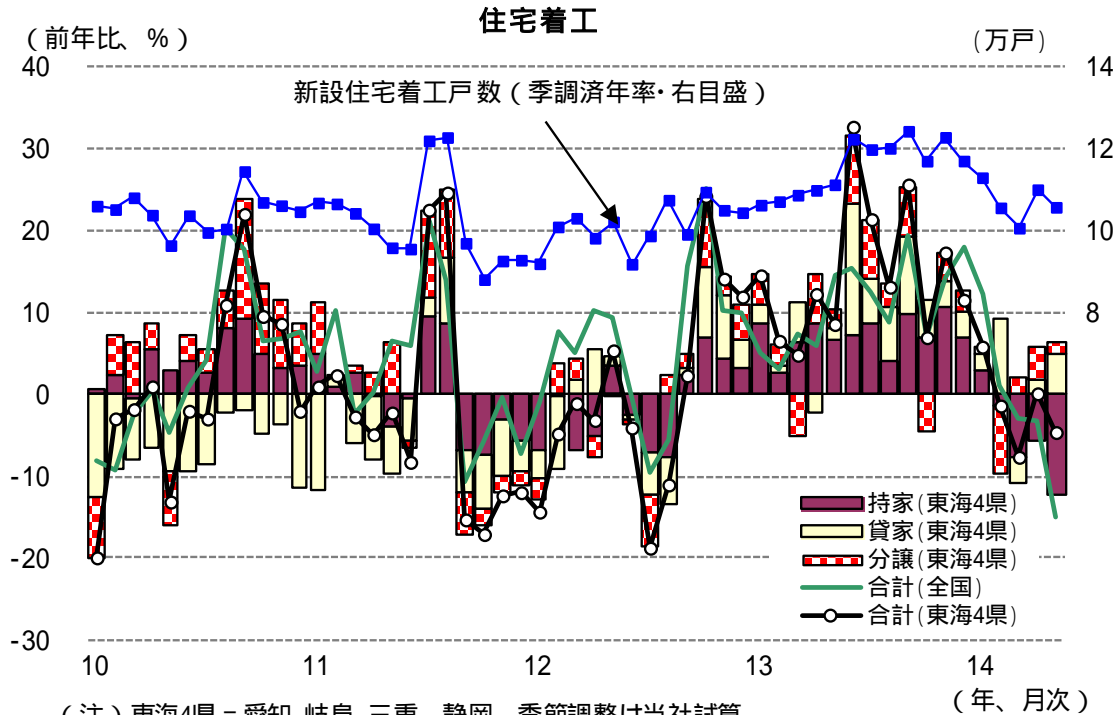


消費者マインドを表す6月の消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は、前月比 + 2.0ポイントと、2ヶ月連続で上昇した。5月のトヨタの国内生産は水準を低下させたものの、消費増税に対する不安感が払しょくされたことから消費者マインドは改善傾向となっている。今後もトヨタの生産水準の低下が続き、物価も上昇するが、所得面の下支え効果により消費者マインドは底堅く推移するとみられる。



6. 住宅投資 ~ 減少が一服している

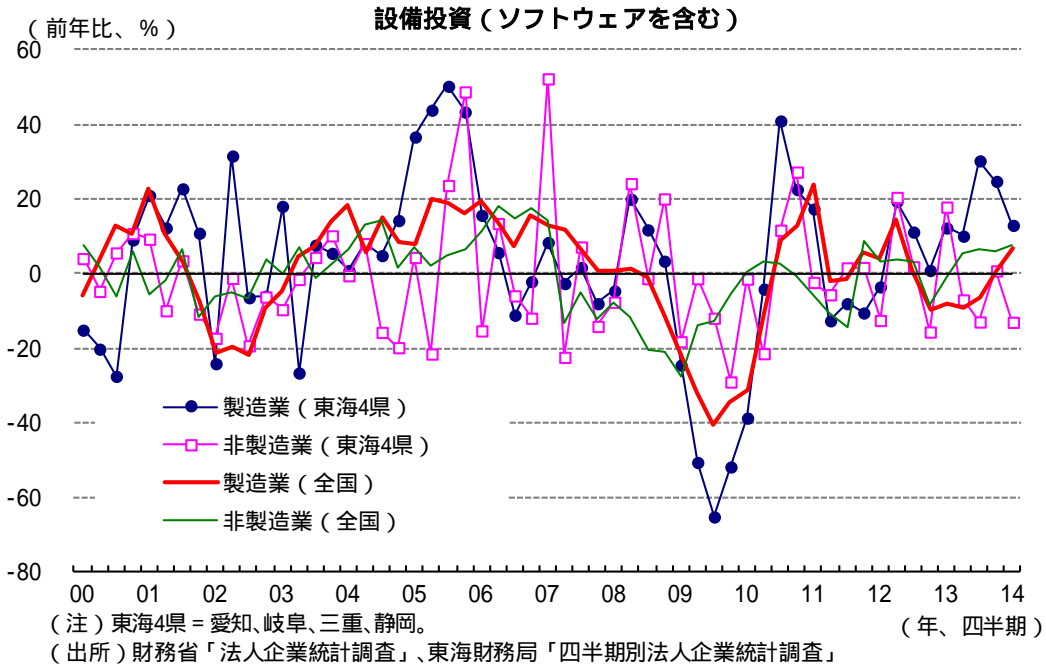
5月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比 - 3.9%と2ヶ月ぶりに減少した。前年比でも - 4.6%の7,972戸と2ヶ月ぶりの減少となった。利用関係別の寄与度では、分譲が同 + 1.4%、貸家が同 + 4.9%と増加したが、持家が同 - 12.4%と減少した。昨年10月以降、着工ベースで水準を切り下げてきたが、足元は横ばい圏で推移している。先行きも横ばい圏で推移することが予想される。



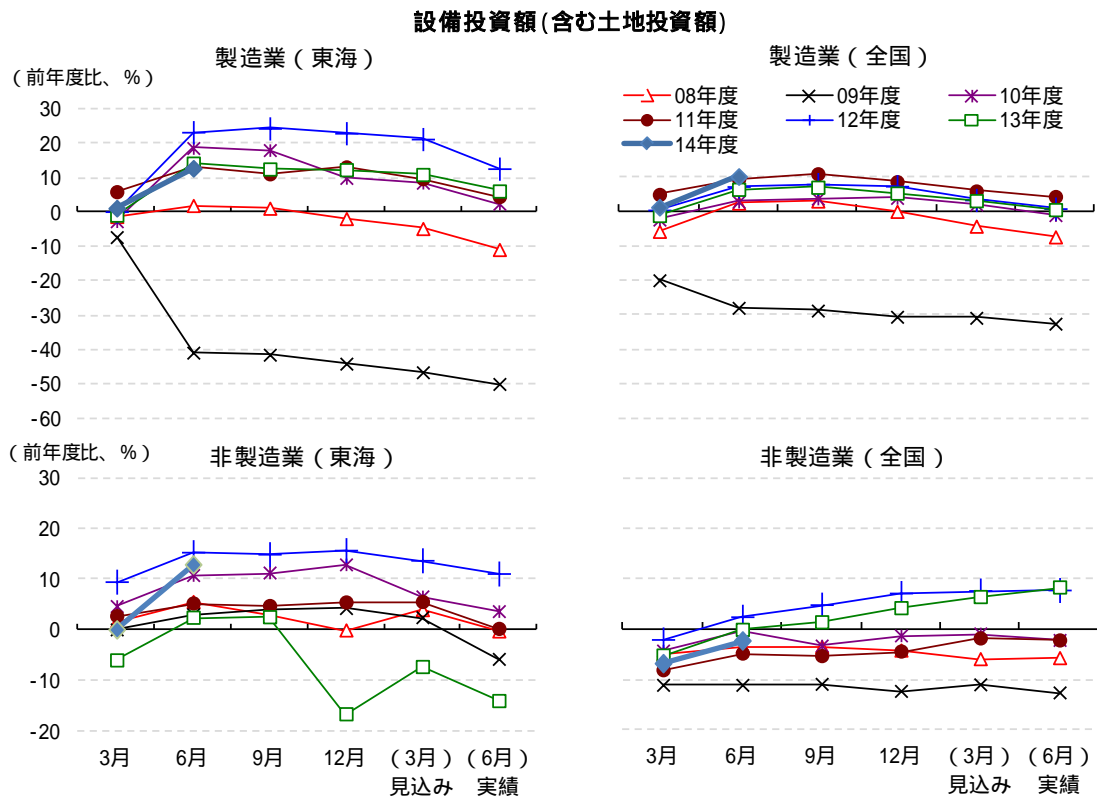
(注) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。季節調整は当社試算。
 (出所) 国土交通省「建設着工統計」

7. 設備投資 ~ 製造業は増加している

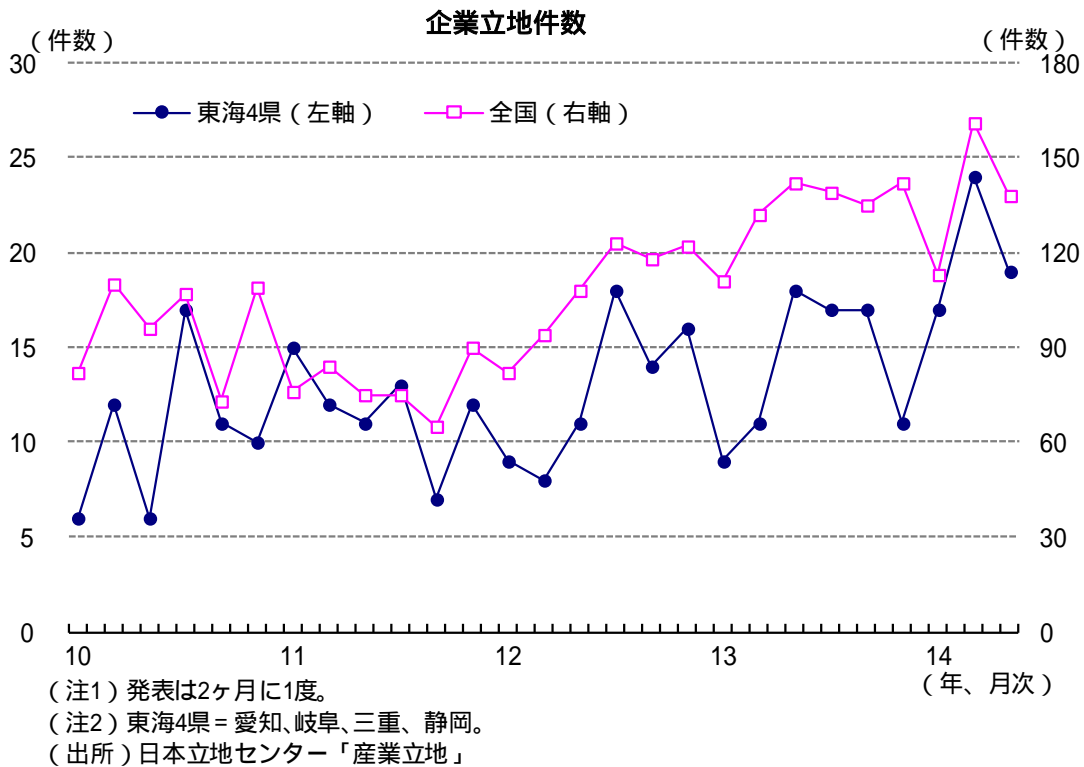
2014年1~3月期の東海4県の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比 - 0.1%と、4四半期連続で増加した後、ほぼ横ばいにとどまった。製造業は同 + 13.0%と増加したが、非製造業が同 - 13.0%と減少した。全国は非製造業の設備投資を中心に増加しているが、東海では非製造業が減少傾向にあるのに対し、製造業は増加基調が続いている。



日銀短観6月調査では、13年度の設備投資が、製造業で維持・更新投資などを中心に前年比 + 6.2%と増加した一方、非製造業では電気・ガス的大幅な下方修正が響き、同 - 14.0%と減少した。14年度計画は、製造業、非製造業いずれも同 + 12.8%となっており、前年同時期の13年度計画と比べて製造業はやや下回っているが、非製造業は大きく上回っている。

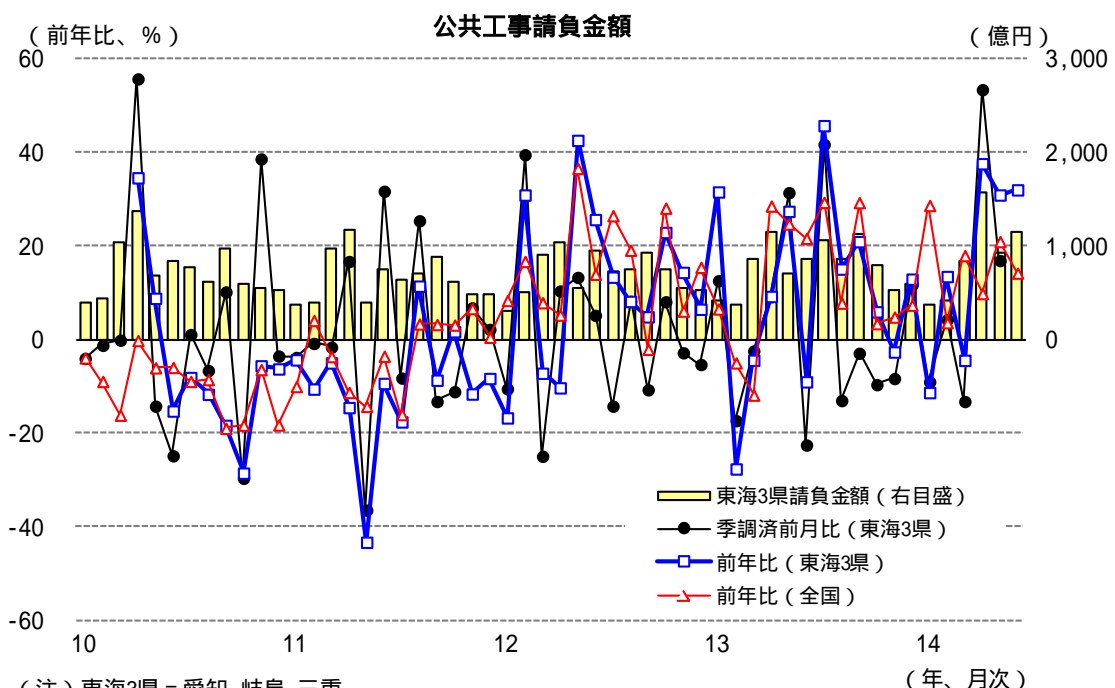


2014年4月・5月の東海4県の企業立地件数は19件と、前期(24件)から5件減少し、前年同期(18件)と比べると1件増加した。東海地域では、2012年以降、円高定着などもあり製造業を中心に全国と比べて企業立地件数が伸び悩んでいたが、全国並みの動きとなってきた。



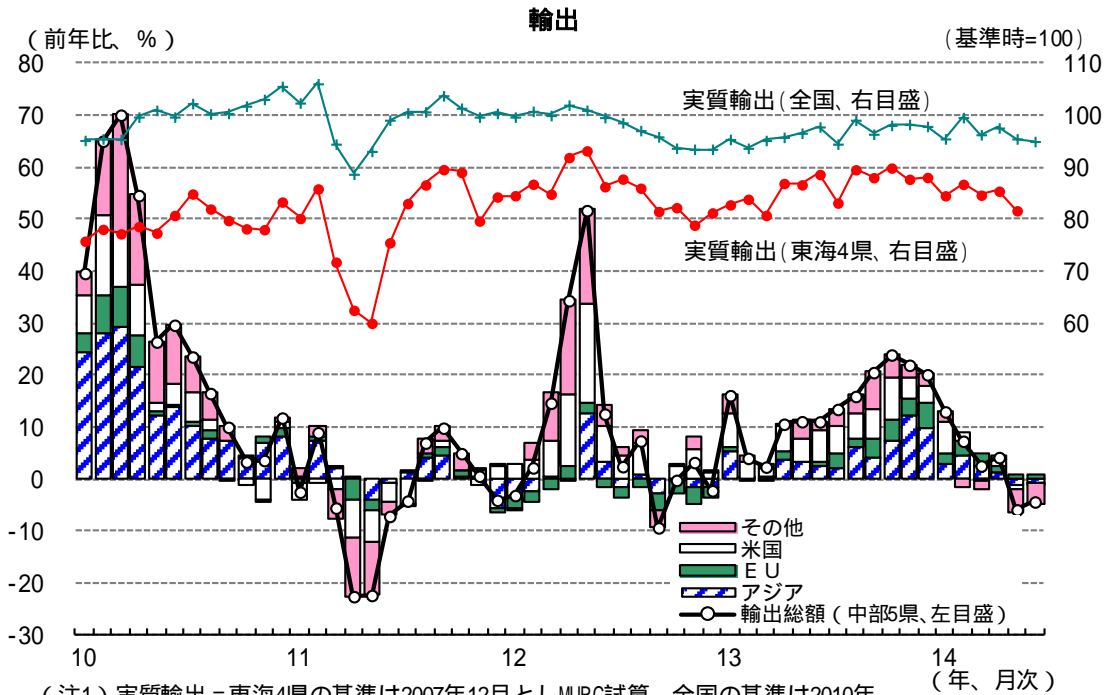
8. 公共投資 ~ 増加している

6月の東海3県の公共工事請負額は、前年比+32.1%の1,148億円と3ヶ月連続で前年を上回った。発注者別では、国が同+18.0%と5ヶ月連続で増加、地方は同+42.4%と3ヶ月連続で増加した。5月の季調済み前月比は+17.0%と2ヶ月連続で増加している。新年度に入ってから、消費増税に伴う対策の効果により、公共工事の請負は増加傾向で推移している。



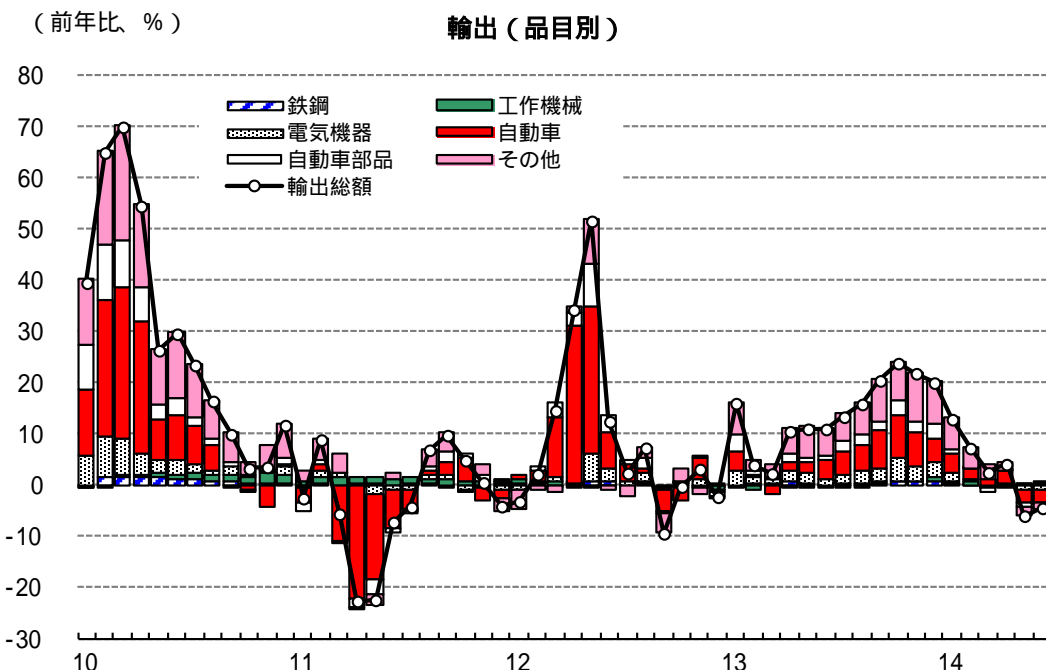
9. 輸出入 ~ 輸出は減少傾向、輸入は横ばい圏

5月の実質輸出（季調済）は、前月比 - 4.4%と2ヶ月ぶりに減少した。6月の名古屋税関管内の輸出額は前年比 - 4.3%と2ヶ月連続で減少した。中国向けは同 + 2.8%と増加したが、中国を含むアジア向けは同 - 1.8%と2ヶ月連続で減少し、米国向けも同 - 0.5%と2ヶ月連続で減少した。EU向けは同 + 5.7%と15ヶ月連続で増加した。海外景気の回復は緩慢であり、目先は減少傾向が予想される。



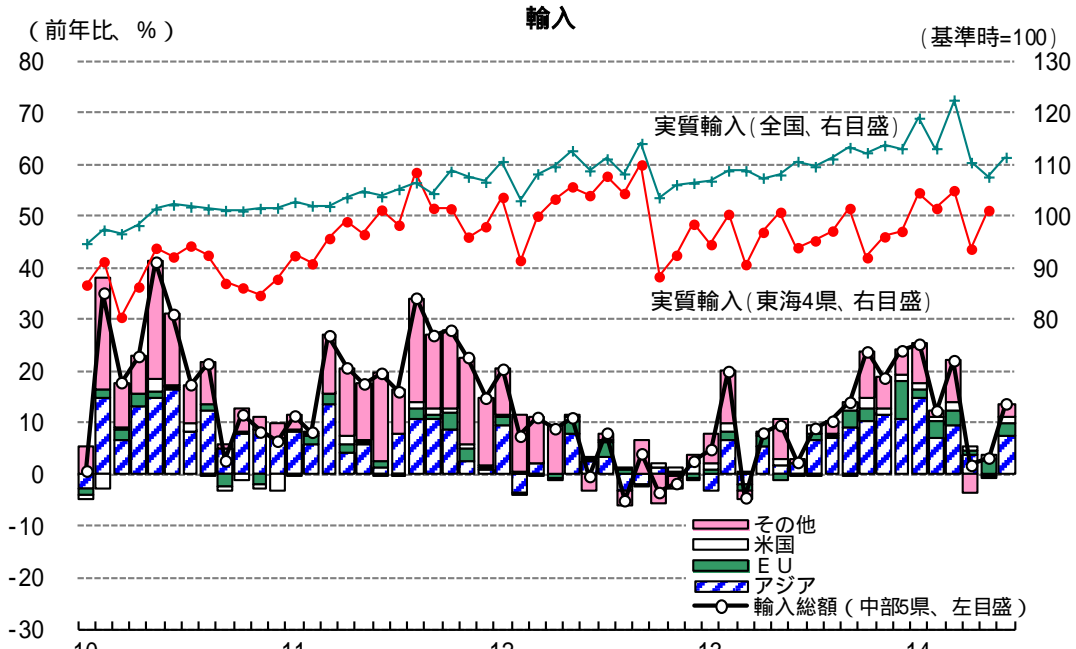
(注1) 実質輸出 = 東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

6月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、主力の自動車（前年比 - 8.0%）と自動車部品（同 - 0.2%）は、ともに2ヶ月連続の減少となった。電気機器（同 - 9.1%）も4ヶ月連続で減少した。



(注) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」

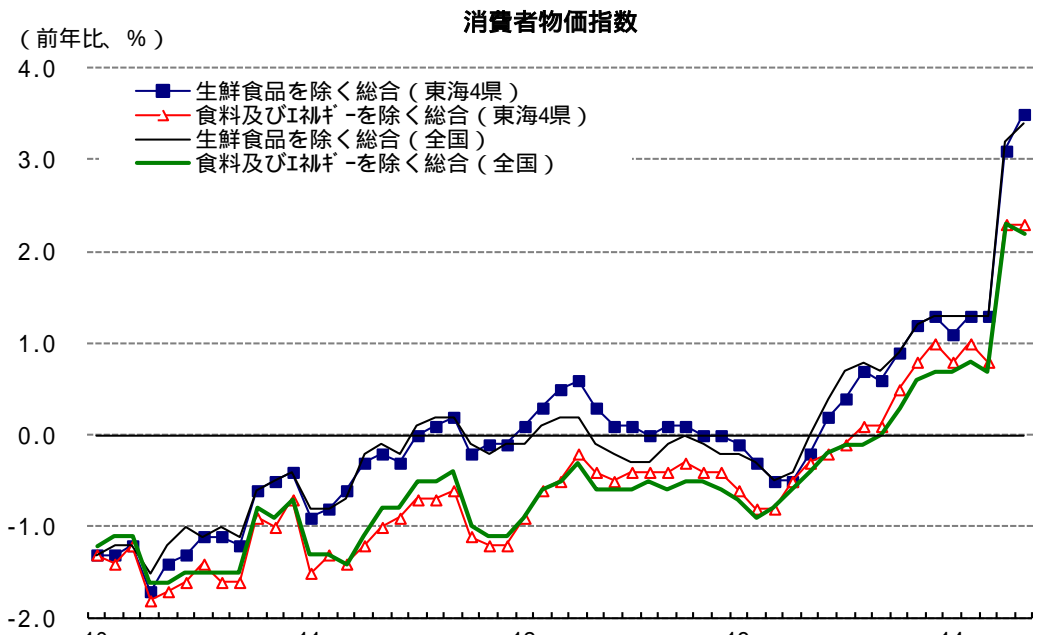
5月の実質輸入(季調済)は、増税前の駆け込み需要の反動により大きく減少した前月から持ち直し、前月比+8.0%と2ヶ月ぶりに増加した。一方、6月の名古屋税関管内の輸入額は前年比+13.7%と15ヶ月連続で増加した。4月、5月は駆け込み需要の反動により前年比の伸びが縮小していたが、駆け込み需要に伴う輸入増の反動の影響は薄れつつあり、実質輸入は当面、横ばい圏で推移すると予想される。



(注1) 実質輸入 = 東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

10. 物価 ~ 消費者物価は消費税引き上げにより大幅に上昇

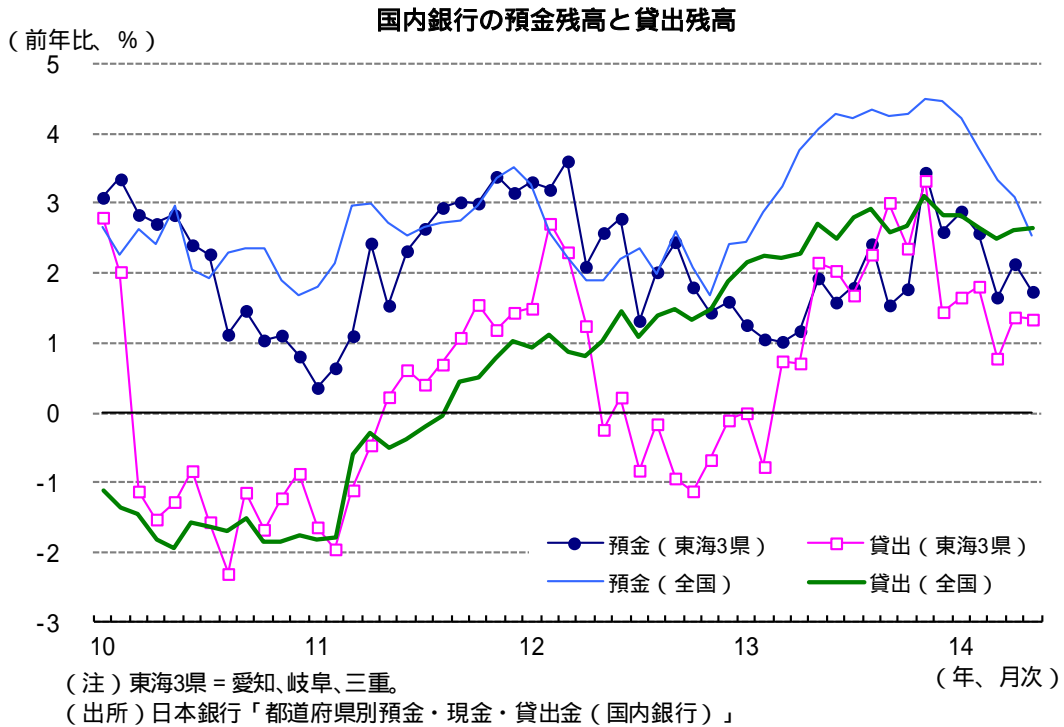
5月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合で、前年比+3.5%と大幅に上昇し、12ヶ月連続のプラスとなった。電気・ガス代、自動車等関係費、日用品、洋服など幅広い品目で上昇した。食料・エネルギーを除く総合は、同+2.3%と10ヶ月連続のプラスとなった。消費増税後は幅広い品目で消費増税分の価格転嫁が進んでおり、物価は大幅な上昇が続くとみられる。



(注) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。
 (出所) 総務省「消費者物価指数」

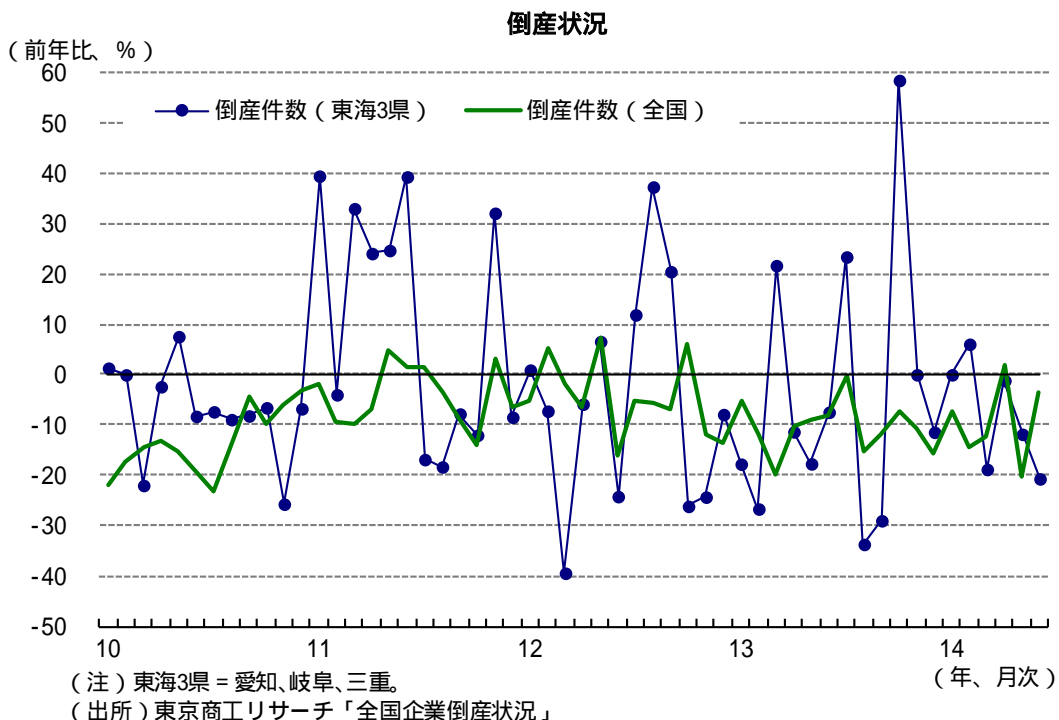
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

5月の東海3県の預金残高(国内銀行ベース)は、個人預金が堅調に推移し、前年比+1.7%と増加が続いている。貸出残高(国内銀行ベース)は、同+1.3%と15ヶ月連続で増加したが、昨年のM&A関連の大口貸出の寄与が一巡したことから増加率は限定的となっている。4月以降、自動車が減産局面に入っており、運転資金の需要が弱含むとみられ、貸出残高は伸び悩むことが予想される。



12. 倒産 ~ 倒産件数、負債総額ともに減少

6月の東海3県の倒産件数は69件と前年比で-20.7%減少した。愛知県(前年比-11.7%)は2ヶ月連続、岐阜県(同-42.1%)は2ヶ月ぶりに、三重県(同-37.5%)は3ヶ月ぶりに減少した。上期(1~6月)の倒産件数は建設・卸売で減少した。一方、6月の東海3県の負債総額は、同-53.2%の92億円と3ヶ月連続で前年を下回った。上期の負債総額はバブル崩壊の91年以降で最少となった。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	→		→	輸出	全国	↘		↗
	東海	→		→		東海	↘		↘
	関西	→		→		関西	→		↗
個人消費	全国	↘		↗	輸入	全国	↘		↗
	東海	↘		→		東海	→		→
	関西	↘		↗		関西	→		↗
住宅投資	全国	↘		↘	生産	全国	↘		→
	東海	→		→		東海	→		↘
	関西	→		→		関西	→		↘
設備投資	全国	↗		↗	雇用	全国	↗		→
	東海	↗		↗		東海	→		→
	関西	↗		↗		関西	↗		↗
公共投資	全国	→		→	賃金	全国	↗		↗
	東海	↗		↗		東海	→		→
	関西	↗		→		関西	↘		→



(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は7月2日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		6月のコメント	7月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しが続いているが、一部に駆け込み需要の反動がみられる	持ち直しが続いており、駆け込み需要の反動減からの回復がみられる
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	横ばい	横ばい
	東海	駆け込み需要の反動により減少している	横ばい圏で推移している
	関西	高水準横ばい	高水準横ばい
3. 雇用	全国	持ち直しは一服	持ち直しは一服
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している
4. 賃金	全国	下げ止まっている	持ち直しつつある
	東海	緩やかに持ち直している	横ばい圏で推移している
	関西	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
5. 個人消費	全国	増税後、反動減がみられる	増税後、反動減がみられる
	東海	持ち直しが続いているものの、駆け込み需要の反動がみられる	持ち直しが続いており、駆け込み需要の反動減からの回復がみられる
	関西	緩やかに持ち直しているが、駆け込み需要の反動がみられる	緩やかに持ち直しており、駆け込み需要の反動減からの回復がみられる
6. 住宅投資	全国	減少傾向	減少傾向
	東海	減少が一服している	減少が一服している
	関西	減少が一服している	減少が一服している
7. 設備投資	全国	緩やかに増加している	緩やかに増加している
	東海	製造業は増加している	製造業は増加している
	関西	持ち直している	持ち直している
8. 公共投資	全国	横ばい	横ばい
	東海	増加している	増加している
	関西	増加している	増加している
9. 輸出入	全国	輸出は横ばい、輸入は駆け込み需要の反動により減少	輸出は弱含み、輸入は駆け込み需要の反動により減少
	東海	輸出は減少傾向、輸入は横ばい圏	輸出は減少傾向、輸入は横ばい圏
	関西	輸出、輸入とも横ばい	輸出、輸入とも横ばい
10. 物価	全国	消費税率引き上げにより、国内企業物価、消費者物価とも大幅に上昇	消費税率引き上げにより、国内企業物価、消費者物価とも大幅に上昇
	東海	消費者物価は消費税率引き上げにより大幅に上昇	消費者物価は消費税率引き上げにより大幅に上昇
	関西	消費者物価は消費税率引き上げにより大幅に上昇	消費者物価は消費税率引き上げにより大幅に上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに増加

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。